

3 活動やイベントを見学する



3課では活動やイベントに参加する場面でのインターアクションに必要なポイントを学びます。

例1 日本語ボランティア教室について知りたいとき

1. 各コマについて

1コマ目	留学生が「日本語ボランティア」という貼り紙を見て興味をひかれる。
2コマ目	どんな活動かを知りたいと思い、留学生がボランティア教室の事務員に質問をする。
3コマ目	詳細を知るために、さらに詳しく質問をする。
4コマ目	留学生は質問しただけだったが、ボランティア教室の事務員に、日本語教室に参加するつもりだと勘違いされ、戸惑っている。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、公共の場面や初めての人とのインターアクションでは、「様々な場面で誤解を受けることがある」ということに気づいてもらい、なぜそのような誤解を受けてしまったのか、誤解を受けてしまった場合はどのように対処したらいいかについて考えることがポイントです。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- まず、この漫画の例の中でどのような誤解が生じているかについて確認するため、留学生はどのような意図で質問し、事務員はどのように受け取ったのか、またどうして事務員は誤解をしてしまったのかについて話し合うといいでしょう。
- 日本人とのインターアクションで、「誤解をされてしまった経験／自分が誤解をしてしまった経験」について、学習者の体験を話してもらい、「なぜそうなってしまったのか」「そのときどうしたのか／どうすればよかったのか」などについて、経験をシェアできるといいと思います。学習者の日本人とのインターアクション経験が少ない場合は、日本人にかぎらず、異なる文化（国にかぎらず、性別、年齢なども含む）の人とのインターアクションについて学習者に身近な例を挙げてもらうといいでしょう。また、今後起こりそうな場面について、教師が例を提供すると話しやすいかもしれません。
- 「どのような聞き方をすれば誤解を受けにくいのか」「相手がこちらの言っていることを誤解していると思ったときはどのようにすればいいのか」などについても話し合うといいでしょう。

例2 イベントに参加したいとき

1. 各コマについて

1コマ目	日本人学生（左）が留学生（右）に、土曜日のボーリング大会に参加する場合は、「事前申し込み」の必要があるため、リストに名前を書く必要があることを伝えている。
2コマ目	留学生（真ん中）は、「事前申し込み」という手続きがあることを認識しておらず、勝手に周りの学生を誘い、参加者を募ってしまう。
3コマ目	まとめ役の日本人学生は、ボーリング大会の会場で、参加予定者の人数に応じた数のレーンを、参加者に割り当てている。
4コマ目	参加予定者の数より実際の参加者の数がかかなり多いために、レーンが足りなくなるという問題が起きるが、留学生（アントニオ）をはじめとするその他の学生は、その問題を認識していない。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、活動やイベントに参加するときは、様々なルールがある場合があるということに気づいてもらえるといいでしょう。
- 活動に参加するときは、自分の文化の基準で動くのではなく、その文化の中のルールのようなものがないかどうか、まず確かめることが重要であることに気づいてもらえるといいでしょう。
- 多文化環境においては言語運用能力だけではなく、「常識」や「社会の基準」をどのように解釈し、折り合いをつけるようにすると言語コミュニケーションがうまく運ぶかについて学生に注目してもらうことがポイントです。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- まず、この漫画では何が問題になっているかについて話し合います。この例では、「事前申し込み」という手続きを経る場合は、「人数の制限がある」というルールがあることに気づいてもらえることが重要です。漫画について、「問題が起きた原因は何か」「本当は誰がどうすべきであったか」などについて話し合うと、気づきがうまれやすいと思います。
- 「このような場面を体験したことがあるかどうか」について、学習者の体験を話してもらうと、事例のバリエーションが増え、理解が深まりやすいと思います。

例3 カルチャー教室に参加したいとき**1. 各コマについて**

1コマ目	留学生（右）がカルチャーセンターの料理教室に興味を持ち、受付で質問をする。
2コマ目	留学生が受講料を聞き、「高い」と感じるが、さらなる確認をせずに高いことを理由に受講をあきらめる。
3コマ目	友達に料理教室の件がどうなったかを聞かれ、高いからあきらめたことを伝える。
4コマ目	不思議に思った友達が、チラシの情報を確かめ、「4000円」という受講料が「5回分」なのに、「1回分」と思いこんでいたことが判明する。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、自分が聞き取った情報が何かおかしいと感じたときや、聞き取りに自信がないときに、どのようにしたらよいかについて考えてもらうことが1つ目のポイントです。
- 聞き取った情報についてきちんと確認をしないと、勘違いをしていることがあるということに気づいてもらうことが2つ目のポイントです。また、情報を確認する場合、どのように確認したらよいかが3つ目のポイントです。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- まず初めに、この漫画の例では何が問題になっているか、本当はどうすべきだったかについて話し合います。
- 情報の確認がうまくできないことにより生じる不利益について、学生に認識してもらい、特に大切な情報については確認をすることの大切さについて理解してもらえるといいと思います。学習者に身近な例、例えば、学校場面では、奨学金、試験、宿題の情報などについて例を挙げるとわかりやすいと思います。また、アルバイト／ビジネス場面、旅行場面などの学習者にとって必要な場面において、大切な情報とはどのようなものがあるかを確認するといいいでしょう。